上暮地から見た富士山は四季絶景である

現状

・邪魔になる建物がなく、見通しがよい。
・適度に人が入った緑があり、独特の傾斜の急峻な地形により、他地域に見られない美しい富士山が見える。

目標

・見通しを守る。
・緑の適切な管理
・地形にあった土地利用

方法、説明

・建築物の規制
・樹木の規制
・具体的なアイディアを市が誘導的に提示する。

景勝地白糸の滝

現状

・発見より数百年を経た白糸の滝は、滝の水が白い糸を見るが如くであることからその名称がつけられた。
・滝周辺の自然も大変美しく、そこから眺める富士山の眺望は絶景である。
・ボランティア活動の成果が上がりつつある。

目標

・利用者の満足度をあげる。
・外部からの来訪者に対応ができるようにする。

方法、説明

・あずま屋、トイレ等の整備
・道路等、駐車場の整備
・ボランティア活動の維持

天然記念物「大藤」

現状

・（暗く日当りが悪いため）樹勢が弱っている。
・分かりにくい、行きにくい。
・地域にとって大事な天然記念物

目標

・大藤を元気にする。
・アクセスの改善

方法、説明

・大藤の養生（樹木医への依頼等）
・周辺の樹木の管理
・管理体制の確立（市や公的機関の協力が必要）

数見団地奥にある三崖の滝

現状

・アクセス道路がない。（熊、猿がでる。）
・風景の質が下がっている。（広葉樹が少ない、不法車の投棄）

目標

景勝地として活用したい。

方法、説明

・アクセスの整備
　車によるアクセス
　歩道の整備
　看板の設置
　周辺に滝と連携するような施設設置（バーベキュー施設等）
・風景の質の維持
　不法投棄車の撤去
　修景（花植え、蛍の成育等）
　川床の整備
・ボランティア等の組織づくり

国道 139 号東側の地域への道路が狭いため未開発

現状

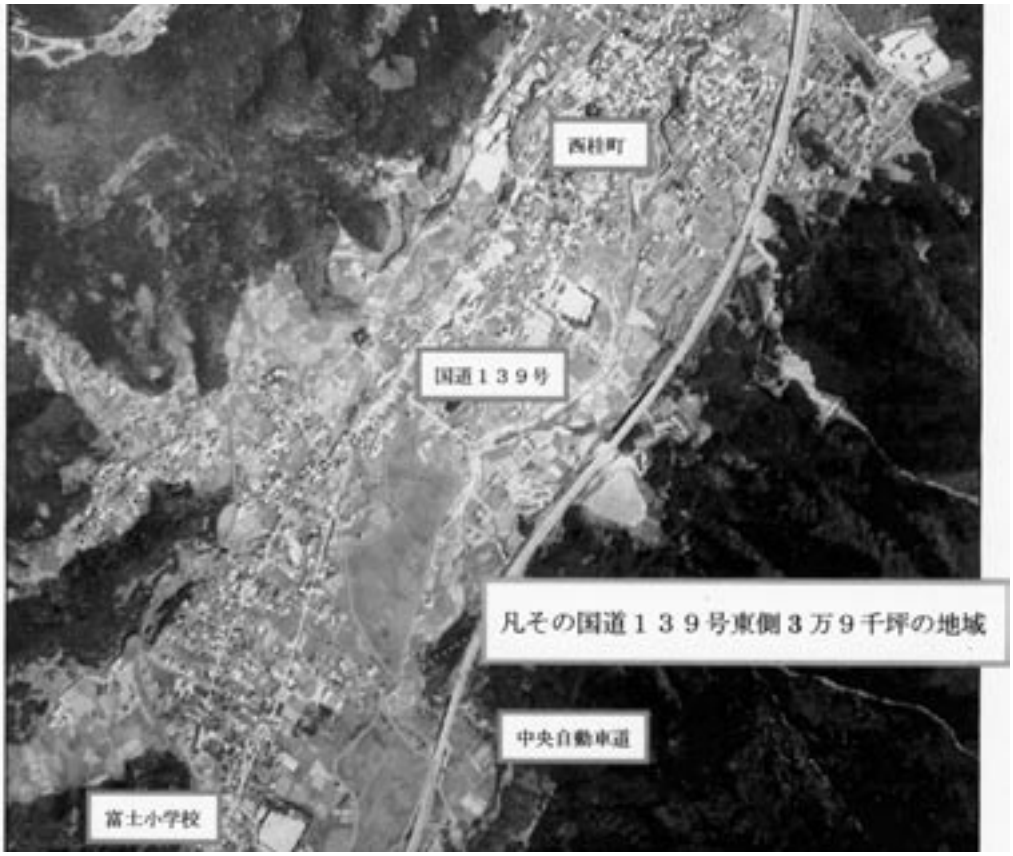
・約３万９千坪のまとまった農地（虫食いがおきている、休耕田、家屋）
・富士吉田市と西桂町の境

目標

・将来の開発に適した状態を維持していく。（まとまった状態に価値がある。）
・広域交通に役立つ道路網の一端を担ってほしい。

方法、説明

３万９千坪をまとめて計画してほしい。



国道 139 号について

現状

・渋滞
・歩道がない。
（要望は出しているが進まない。）
・寿道路から 139 号に出にくい。
・平成 22 年事業着手予定の富士吉田市と西桂町を結ぶバイパスを推進しよう。

目標

・渋滞の緩和
・歩行者の安全の確保
・構造的な危険に対する対処

方法、説明

・拡幅と実効性のあるバイパス
・歩道の整備または、歩行ルートの検討
・ミラーの設置と交差点の誘導

白糸町に駅が欲しい

現状

・寿駅から三つ峠駅まで３ｋｍもある。
・高校生や高齢者が家族の送迎に頼っている。
・急傾斜で、停車が困難

目標

・高齢化社会に対応した公共交通の確保
・観光利用が可能性を広げる。

方法、説明

・無人駅による経費節減、停車可能な編成だけを停車させる方法等、実現への可能性を広げて考える。
・候補地を決めていく。
・あきらめない。

公園、広場が少ない

現状

・地区別にみると整備水準がばらついている。
・宮前公園（白糸町の多目的広場）は整備されている。

目標

・多目的に使える場所をつくる。
・地域の人々の交流の場をつくる。
・災害時の避難場所、活動場所をつくる。

方法、説明

・既存の制度の枠組にとらわれず、柔軟に機会を捉えて、公園化を実現
・土地借上げ、免税の方法で、土地を確保する。（買取の第一交渉を市に行ってもらう）
・住民（利用者）が管理に協力し、意見も言う。
・住民と市役所の関係を密にする。

河川がゴミで汚れている

現状

・一般に川はゴミで汚れている。
・数見川を見ると、合流地点上はイワナの住む清流で、下流はゴミで汚れている。
・市は河川の清掃を行い、収集や消耗品の支給等で支援している。

目標

ゴミの投棄そのものを抑制する。

方法、説明

・重いペナルティーを課すことができるようにする。（反則金等）
・学校等での学習により啓蒙する。
・分担区域を決めて、区域ごとに清掃している団体や人の顔が見えるようにする。
・花等を植えて、投げ捨てを防ぐ。
・河川の管理目標をつくり、達成状況を調査（水質の基準、ゴミの基準）
・地域の力で管理できないことについて、市は対処してほしい。（上流からのゴミの問題など）

農業、防火用水が溢れる

現状

大雨のとき、雨水が水路に急に流れ込んであふれる。（一部水路断面を大きくして対応している。）

目標

水が溢れないようにする。（転落事故等の防止策）

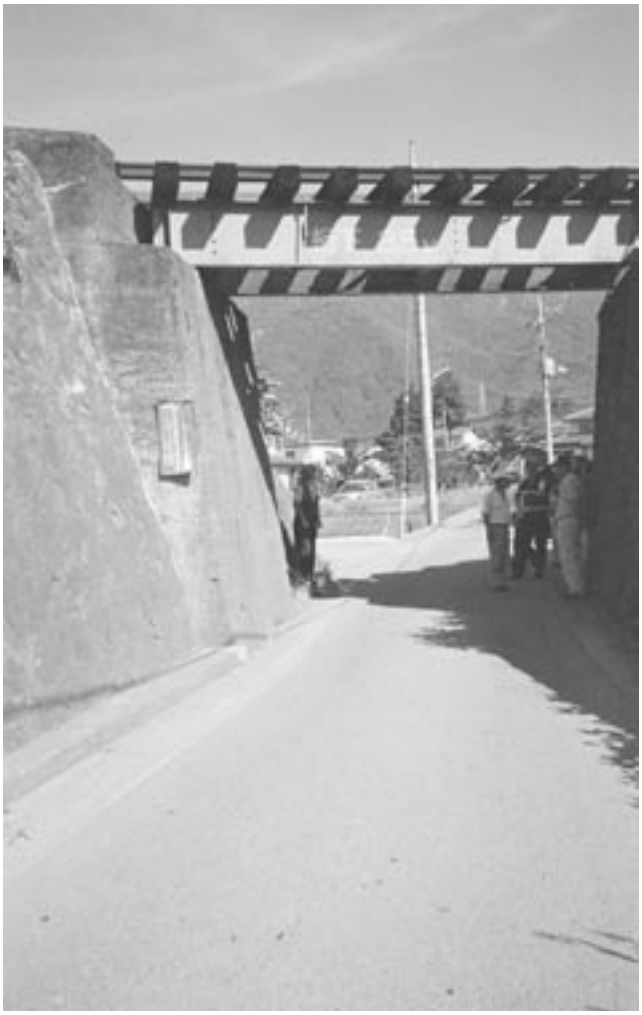
方法、説明

- 水路ごとの水量の把握と、それに基づく計画的な排水、雨水が染み込むことができる地面の面積を確保する政策や規制（市役所）
- 道路、市街地の雨水が水路に流入しないように整備する。
- 水路の状態にふだんから気を配る。（住民）
- 大雨の時には水路を監視する。（住民）
- ゴミ投棄をやめる。（住民、市役所）

生活道路が狭い

現状

・富士急行線を横断する道路に狭い場所がある。（桁下 2.8 mと 3.5 m）
・消防、防災の到達経路が確保されているか心配
・ 自動車のすれ違いが困難な場所が多い。
・自動車がスピードを出せないので比較的安全



目標

非常時の「安心」と日常の「安全」と「便利」の確保

方法、説明

・富士急行線の西側を通る道路が必要（農道が開通予定）
・すれ違いのできる「ふくらみ」を設けて利便性を上げる。
・ガードの改良（困難かもしれないが）

猿、猪の出没について

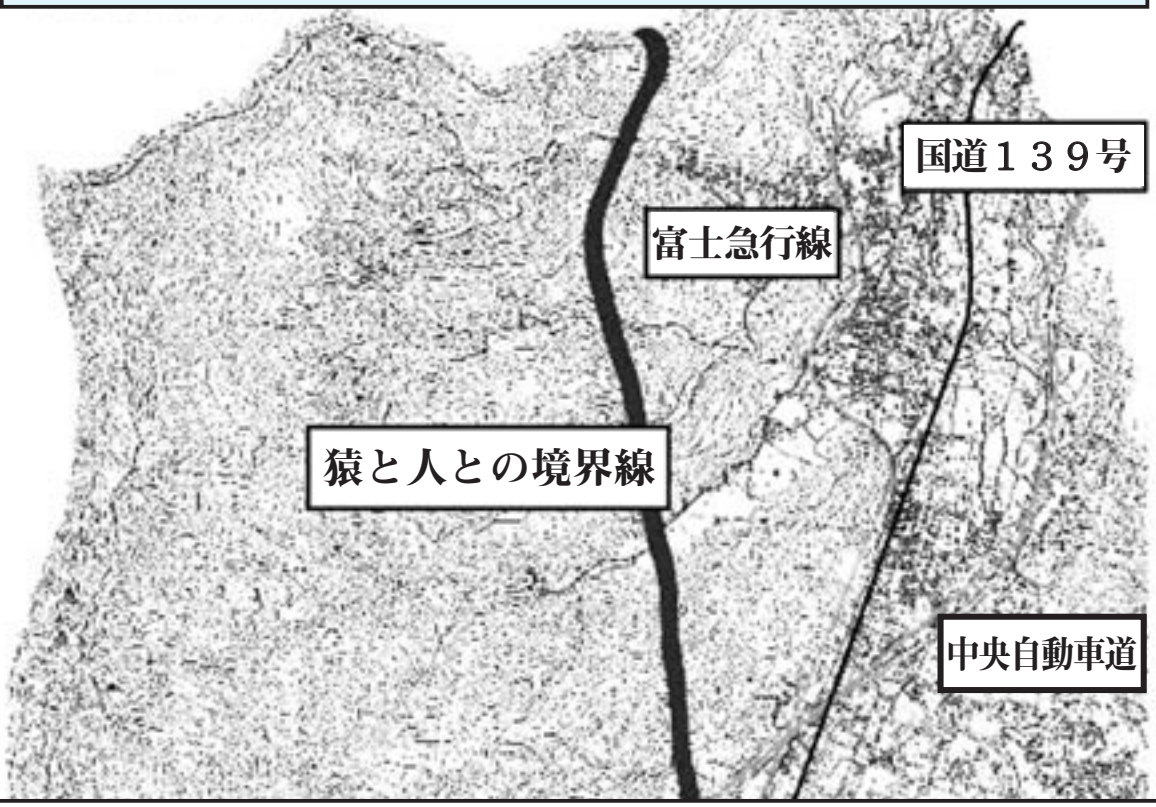
現状

イノシシ、猿の出没により、農作物も被害を受け、人身の危険を感じる。

目標

イノシシ、猿の出没が人間の迷惑にならない範囲（場所と回数）に抑える。

方法、説明

- 個体数を抑制するための駆除
- どの場所にどの程度、イノシシ、猿に来てほしくないか、線を引き、出没をコントロールする方策を検討する。
- 線を引いた場所の外側をどのように管理すれば、内側への出没のコントロールが成功するか考える。

これ以上、猿に出てきて欲しくないという境界線